

予防、診断、治療、フォロー、サポート。
すべての患者に対して、標準的な治療・ケアが適用できるわけではありません。
様々な合併症、薬剤の相互作用、心理的サポートの介入時期、
患者ニーズへの対応、医療経済的問題……。
がん診療では、そのほとんどのケースにおいて、個別性が前提となっています。
標準治療の少し先を考えるためには、
現場に即した「問い」と異なった視点による「答え」を知ることも必要ではないでしょうか。
そこで、本特集では、総論とQ&A形式による二段構成で、
がん診療の「リアルなベシック」を提示します。
Q&Aは企画者が設定しました。
それぞれ施設属性の異なる3名のエキスパートが、
視点の異なる考えを提示します。
どれかひとつが正解ということではありません。
ひとつでもあなたの目の前の患者の姿に重なることを期待します。

View-point

がん診療

「大腸がん」

企 画：中島貴子（聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座）

Answer：坂井大介
（大阪大学大学院医学研究科 先進癌薬物療法開発学寄附講座）

松本 寛
（がん・感染症センター都立駒込病院 大腸外科）

門脇重憲
（愛知県がんセンター中央病院 薬物療法部）